

日本史 B	報告課題第 4 回 解説	年	組	氏名	
-------	--------------	---	---	----	--

◎教科書『詳説日本史B』 p86～119をしっかりと読みましょう。

また、以下に書かれている学習内容の解説を読み、理解を深めましょう。

〈ポイント〉 報告課題は教科書からの抜きだし問題が多くあります。

報告課題の文章と教科書の文章を照らし合わせながら問題を解き進めましょう。

1. 「院政と平氏の台頭」

院政とは、天皇が位を譲り、その後上皇（院）として天皇を後見しながら政治の実権を握ることをいいます。白河天皇などがその例です。

1167年、平清盛は太政大臣となり、平氏の勢威は他に並ぶものがなくなる程でした。しかし、権力の独占が院や貴族・寺社・源氏などの反対勢力の結集をうながし、平氏の没落を早める結果となります。

2. 「鎌倉幕府と執権政治」

反平氏である東国の武士団は源頼朝のもとに集結しました。源頼朝は、鎌倉を根拠地として主従関係の確立に努めます。その後、東国を中心とした源頼朝の支配権は西国にもおよび、武家政権としての鎌倉幕府が確立します。

3. 「蒙古襲来」

日本は、元が強要してきた朝貢を拒否していました。それに対して、元は日本の服従を目指し 2 度にわたり襲来します。（蒙古襲来、元寇）

4. 「鎌倉文化」

鎌倉時代の文化は、伝統文化を受け継ぎながらも、武士や庶民に支持された新しい文化が生み出されます。地方出身の武士の素朴で質実な気風や南宋や元の文化が文学や美術に影響を与えました。